

一般事項

このファイルには重要情報が含まれていますので、よくお読みください。また、ソフトウェアツールのバージョン間の変更内容に関する詳細情報も含まれています。

この製品には、RSA Security, Inc.からライセンスされたコードが含まれています。IBMからライセンスされた部分は、[http:// site.icu-project.org/download/](http://site.icu-project.org/download/)から入手できます。

システム要件

オペレーティングシステム:	Windows XP/Server 2003/Vista (32ビット)/7 (32ビット、64ビット)
プロセッサ:	1 GHz以上
RAM:	1,024 MB以上
ハードディスク:	20 GB、15 GB以上の空き容量
グラフィックカード:	SVGAグラフィック対応
ブラウザ:	Internet Explorerバージョン9以降

Windows 98およびWindows MEオペレーティングシステムはバージョン4.0.0以降ではサポートされていません。

Windows NTオペレーティングシステムはバージョン5.2.0以降ではサポートされていません。

Windows 2000オペレーティングシステムはバージョン8.1.1以降ではサポートされていません。

重要事項

インストール

アクセス権

ソフトウェアツールをインストールして起動するには、インストールディレクトリへの書き込みアクセス権が必要です。

Windows XP、Windows Server 2003、Windows Vista、およびWindows 7でインストールを実行するには、管理者権限が必要です。

HKEY_LOCAL_MACHINEレジストリキーへのアクセス権が必要です。

▶ プログラムの終了

ソフトウェアツールのインストールを開始する前に、PC上で開いているすべてのプログラムを終了してください。

▶ ネットワークインストール

ソフトウェアツールをネットワークドライブにインストールすることはできません。

DVDの取り出し禁止

インストール中はDVDをドライブから取り出さないでください。

ライセンス

ライセンスが期間限定の場合、システムクロックを戻さないでください。ライセンスが無効になります。

既存のライセンスは、バージョン9.0.0で使用できません。PNOZmultiコンフィグレータを最初に起動するときに、新しいライセンスを入力してください。

印刷

- ▶ 新しい印刷機能では、PDFファイルを表示するのに適切なプログラムが必要です。
- ▶ このプログラムはブラウザでの表示に対応している必要があります。このオプションは、プログラムメニューから選択しなければならない場合があります。
- ▶ システムにPDFファイルの表示プログラムが複数ある場合、ブラウザでの表示に対応しているプログラムを既定のプログラムとして設定する必要があります。

接続数

ファンクション間の最大接続数は253です。

既知の問題

ワークスペース

画面の解像度が1280×1024より高い場合、ファンクションが正しく表示されない場合があります。

Excelなどの表計算アプリケーションで割り付けリストを開く場合:

行の先頭の文字が「=」、「+」などの演算子の場合、Excelはそのセルの内容を式の値として解釈します。このため、文字をテキストに変換する必要があります。

Excelでは次の手順に従います。

1. 該当する列を強調表示します。
2. [データ] -> [区切り位置] を選択します。
3. 最初の2つのステップでは、既定の設定をそのまま利用します。
4. ステップ3で [列のデータ形式] -> [文字列] を選択します。
5. [完了] をクリックします。

文字のエンコードがUTF-8の場合は、割り付けリストもUTF-8で表計算アプリケーションにインポートして編集する必要があります。

コードの設定に失敗すると、割り付けリストをPNOZmultiで開くことができなくなります。

Excelでは次の手順に従います。

1. 新規ワークブックを作成します。
2. セルA1を強調表示します。
3. [データ] -> [外部データの取り込み] -> [テキストファイルから外部データを取り込み] を選択します。
4. 文字コードには [UTF-8] を、区切り文字には [カンマ] を選択します。

COMポート付きチップカードリーダー

Windows 7オペレーティングシステムは、COMポート付きチップカードリーダーをサポートしていません。

ベースユニットとの通信

通信を行うには、PNOZmultiベースユニットをコンフィグレーションPCに直接接続する必要があります。 PNOZmultiベースユニットと通信中は、接続先PCへのリモートアクセス (リモートデスクトップ接続) を行うことはできません。

PNOZmultiコンフィグレータの2つのインスタンスの実行

PNOZmultiコンフィグレータのインスタンスから他のインスタンスにマクロをドラッグすることはお勧めしません。

PNOZmultiとの通信中のメッセージ

PNOZmultiとの通信中に、次のメッセージが表示されることがあります。「PNOZmultiと通信できません。 インタフェースはすでに使用されています。」

この場合は、次の手順に従います。

- ▶ ベースユニットの供給電圧をオフにします。
- ▶ チップカードを取り外して交換します。
- ▶ ユニットの供給電圧を再びオンに切り替えて、接続を再確立します。

マクロのインポート

9.0.0より前のバージョンでは、プロジェクトからマクロをインポートするときに問題が発生する可能性があります。この場合は、次の手順に従います。

- ▶ マクロライブラリからマクロを削除します。
- ▶ プロジェクトマネージャからマクロを開きます。
- ▶ マクロエディタでマクロを保存し直して、マクロライブラリに追加します。
- ▶ 再度マクロをエクスポートし、インポートします。

Bluetooth接続が設定されているときに発生する問題

発信用の仮想COMポートでBluetooth接続が設定されている場合、PNOZmultiコンフィグレータを起動したときやプロジェクトを開いたときに問題が発生する可能性があります。この場合は、次の手順に従います。

- ▶ Bluetoothをオフにします。または
- ▶ 発信用の仮想COMポートを削除します。

PNOZmultiプロジェクト (.mpnozファイル) を開く

オペレーティングシステムのWindowsコードページに含まれていない文字がPNOZmultiプロジェクト (.mpnozファイル) のファイル名に使用されている場合、ファイルをダブルクリックするか、Windowsの [プログラムから開く] メニューを使用してファイルを開こうとすると、エラーメッセージが表示されます。

このような場合は、PNOZmultiコンフィグレータ画面からファイルを開いてください。

Changes in Version 9.4.0

新機能

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

新しい増設モジュールPNOZmulti 2

ベースユニットPNOZ m B0に接続するために、次の2種類の新しいリンクモジュールがサポートされています。

▶ PNOZ m EFマルチリンク

この増設モジュールは、2台のPNOZmultiベースユニットの安全接続に使用されます。これは、リンクモジュールPNOZ ml1pおよびPNOZ mml1pと同じ機能を備えています。

▶ PNOZ m EF PDPリンク

この増設モジュールは、安全システムPNOZmulti 2への分散型I/Oモジュールの安全接続に使用されます。これは、リンクモジュールPNOZ ml2pおよびPNOZ mml2pと同じ機能を備えています。

バージョン9.3.0での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

新機能

安全Ethernet通信

安全Ethernet通信により、PNOZmultiベースユニットとPSS 4000デバイスの間で48点の仮想入力と48点の仮想出力のポイントツーポイント接続が可能になります。入出力は安全関連です。仮想入出力と接続設定は、PNOZmultiコンフィグレータでコンフィグレーションします。

新しいフィールドバスモジュールPNOZmulti

ベースユニットPNOZ mxpに接続するための新しいフィールドバスモジュールがサポートされています。

▶ PNOZ mc12p

このフィールドバスモジュールは、フィールドバスEthernet POWERLINKとの通信に使用されます。

バージョン9.2.0での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語

ピルツが提供する言語のアップデート (フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語、中国語) が入手可能になると、その言語のサービスパックをインターネットから直ちにダウンロードできます。現在のサービスパックは、ピルツのホームページにあります。

新機能

ツール言語機能

ピルツから言語が提供されない場合、自分で翻訳してユーザインタフェースに表示できるようになりました。そのためには、PNOZmultiコンフィグレータからソース言語の翻訳ファイルをエクスポートし、対象言語に翻訳済みのファイルを再インポートします。

PNOZmultiコンフィグレータには、ドイツ語と英語のツール言語が用意されています。

ピルツが提供する言語のアップデート (フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語、中国語) が入手可能になると、その言語のサービスパックをインターネットから直ちにダウンロードできます。サービスパックには、ユーザインタフェース用のテキストと対応する資料が格納されています。

現在のサービスパック (ファイル名: PNOZmulti_Configurator_ … _SP … .zip) は、ピルツのホームページ (<http://www.pilz.com/support/downloads/>) のダウンロードエリアから入手できます。

新しいロジックファンクションPSEN

このファンクションPSENは、安全スイッチPSEN cs1.19n、またはcs3.19nのコンフィグレーションに使用されます。

両手操作ボタンファンクションの拡張機能

両手操作ボタンファンクションで遅延時間が入力できるようになりました。

バージョン9.1.1での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

バージョン9.1.0での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語

新機能

新しいベースユニット

新しいベースユニットがサポートされています。

- ▶ **ベースユニットPNOZ m B0バージョン1.1**

新しい小型安全コントローラPNOZmulti 2のベースユニットのバージョン1.1

- ▶ **ベースユニットPNOZ mm0p-T**

新しい小型安全コントローラPNOZmulti Miniのベースユニット。本ベースユニットは、機能はPNOZ mm0pと同様ですが、環境要件が高い場所での使用にも適しています。

新しい増設モジュールPNOZmulti 2

ベースユニットPNOZ m B0に接続するために、次の新しい増設モジュールがサポートされています。

- ▶ **PNOZ m EF 4DI4DOR**

この増設モジュールにより、安全リレー出力4点、入力4点を利用できるようになります。

- ▶ **PNOZ m EF 16DI**

この増設モジュールにより、入力16点を利用できるようになります。

ベースユニットの右側に4台のモジュールをコンフィグレーションできます。

新しいフィールドバスモジュールPNOZmulti 2

ベースユニットPNOZ m B0に接続するために、次の新しいフィールドバスモジュールがサポートされています。

- ▶ **PNOZ m ES CANopen**

CANopenとの通信用のフィールドバスモジュール

- ▶ **PNOZ m ES Profibus**

Profibusとの通信用のフィールドバスモジュール

割り付けリストの改善

- ▶ コンフィグレータのユーザインタフェースに直接、割り付けリストを表示できるようになりました。コンフィグレータのユーザインタフェースの左側、[Project Manager] の横に表示されます。
- ▶ 検索とフィルタのオプションが強化されました。
- ▶ 印刷レポートに、プロジェクトで使用する入出力が表示されるようになりました。
- ▶ データ更新が改善されました。

PNOZmultiコンフィグレータのその他の変更

- ▶ レベル2パスワードユーザが、「オンライン」モードでIPアドレスを変更できるようになりました。
- ▶ PNOZ m B0と併用する場合: グループ診断メッセージが挿入されると、通信モジュールがコンフィグレーションされていない場合、すべての診断ビットがオンになります。
- ▶ コピーされたファンクションにファンクションIDが自動的に割り付けられるようになりました。

バージョン9.0.1での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

バージョン9.0.0での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語

新機能

新しいベースユニットPNOZmulti 2

小型安全コントローラPNOZmulti 2用に、次の新しいベースユニットがサポートされています。

▶ PNOZ m B0

新しい小型安全コントローラPNOZmulti 2のベースユニット

新しい通信モジュールPNOZmulti 2

ベースユニットPNOZ m B0に接続するために、次の2種類の新しい通信モジュールがサポートされています。

▶ PNOZ m ES ETH

この増設モジュールは、小型安全コントローラPNOZmulti 2からEthernet経由で通信を行う場合に使用します。

▶ PNOZ m ES RS232

この増設モジュールは、小型安全コントローラPNOZmulti 2からシリアルインタフェースRS232経由で通信を行う場合に使用します。

新しい増設モジュールPNOZmulti 2

ベースユニットPNOZ m B0に接続するために、次の新しい増設モジュールがサポートされています。

▶ PNOZ m EF 8DI4DO

この増設モジュールにより、安全半導体出力4点、入力8点を利用できるようになります。

PNOZmultiコンフィグレータのその他の変更

ハードウェアコンフィグレーション内に示されるモジュールの説明データが更新可能です。最新の更新については、ピルツまでお問い合わせください。

バージョン8.1.1での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

バージョン8.1.0での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語

新機能

新しい増設モジュールPNOZmulti Mini

ベースユニットPNOZ mm0.1pとPNOZ mm0.2pに接続するためのフィールドバスモジュールがサポートされています。

新しい入力ファンクション

入力ファンクション「安全マット」がPNOZmulti Miniでもサポートされるようになりました。

ループ形成 (LOOP)

仮想LOOP入出力をコンフィグレーションすることで、ループを形成できるようになりました。

バージョン8.0.1での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

バージョン8.0.0での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語

新機能

マクロ

以下の2種類のマクロを使用できるようになりました。

▶ 従来: テンプレート

この種類のマクロは、PNOZmultiコンフィグレータのバージョン7.0.0以降でサポートされています。

テンプレートは単にモデルとして機能します。テンプレートとして定義したユーザプログラムのセクションは、コピーとしてユーザプログラムに挿入することにより、再利用され、個別に編集可能になります。

▶ 新しいタイプ: マクロファンクション

このマクロタイプは新規に追加されました。

- マクロファンクションでは、ユーザプログラム (マクロプログラム) の定義済みのセクションを1つのファンクションに結合します。再利用する場合は、ユーザプログラム内にファンクションとして挿入します。
- マクロプログラムを変更すると、マクロが使用されているプロジェクト内のすべての場所にその変更が適用されます。
- マクロプログラムは、マクロエディタで作成、編集、および表示することができます。
- プロジェクト内のマクロファンクションを検索できます。
- マクロファンクションに関するレポートを作成できます。

割り付けリスト

- ▶ 割り付けリストを開くときのパフォーマンスを向上

バージョン7.2.1での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

バージョン7.2.0での変更点

新機能

新しいベースユニット

新しいベースユニットがサポートされています。

- ▶ PNOZ mm0.2p

ベースユニットMini PNOZ mm0.2p

ベースユニットPNOZ mm0.2pは、PNOZ mm0.1pと同じ機能を備えています。

また、2台のPNOZmultiベースユニットを接続するための内蔵インタフェースも備えています。

新しい速度監視

次の新しい3つの速度監視がサポートされています。

- ▶ PNOZ ms2p TTL
- ▶ PNOZ ms3p TTL
- ▶ PNOZ ms3p HTL

新しい増設モジュールPNOZmulti Mini

ベースユニットPNOZ mm0.1pとPNOZ mm0.2pに接続するために、次の新しい2種類のリンクモジュールがサポートされています。

▶ PNOZ mml1p

この増設モジュールは、2台のPNOZmultiベースユニットの安全接続に使用されます。これは、リンクモジュールPNOZ ml1pと同じ機能を備えています。

▶ PNOZ mml2p

この増設モジュールは、安全システムPNOZmulti Miniへの分散型I/Oモジュールの安全接続に使用されます。これは、リンクモジュールPNOZ ml2pと同じ機能を備えています。

ロジックファンクション

新しいロジックファンクションは次の通りです。

- ▶ EQUゲート (同等)
- ▶ 「パルス立上り／立下り評価」ファンクション

AND、OR、XOR NODD、および**RS-Flipflop**ゲートの入力と出力も反転できるようになりました。

PNOZmultiコンフィグレータのその他の変更

- ▶ 書き込み保護されているディレクトリのプロジェクトを開くことができるようになりました。
- ▶ USBドライバは、ベースユニットPNOZmulti Miniの現在のバージョンで自動的にインストールされます。
- ▶ PNOZmultiコンフィグレータを起動すると、[ハードウェアコンフィグレーション] ウィンドウが自動的に表示されます。

バージョン7.1.1での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

バージョン7.1.0での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語

新機能

ベースユニットMini PNOZ mm0pの拡張機能

▶ メッセージ表示

ユーザは独自のテキストでメッセージをコンフィグレーションできます。これらのメッセージは、機能やロジックファンクションにリンクして、ベースユニットのディスプレイに表示できます。

▶ コンフィグレーション可能な入出力

- 入出力IM0～IM3、IM16～IM19は、一般機能の入力または出力としてコンフィグレーションできます。
- 出力T0～T3は、一般機能の出力としてまたはテストパルスとしてコンフィグレーションできます。

▶ **サポートされるその他のファンクション**

次のファンクションをベースユニットPNOZ mm0p用にコンフィグレーションできるようになりました。

- アップダウンカウンタ
- XORゲート (2k+1)
- 入力の有効化／反転の切り換え

新しいベースユニット

新しいベースユニットがサポートされています。

- ▶ PNOZ mm0.1p
- ▶ PNOZ m0p ETH
- ▶ PNOZ m2p ETH
- ▶ PNOZ m3p ETH

ベースユニットMini PNOZ mm0.1p

ベースユニットPNOZ mm0.1pは、PNOZ mm0pと同じ機能を備えています。
追加機能は次の通りです。

▶ **リレー出力モジュールPNOZsigma**

PNOZsigmaシリーズの次のリレー出力モジュールを拡張モジュールとしてコンフィグレーションできます。

- PNOZ s7
- PNOZ s7.1
- PNOZ s7.2
- PNOZ s10
- PNOZ s11
- PNOZ s22

▶ **通信モジュール**

シリアルまたはEthernet通信モジュールをコンフィグレーションできます。

- PNOZ mmc1p ETH
- PNOZ mmc2p RS232

仮想I/Oもコンフィグレーション可能です (128点まで増設可能)。

▶ **PVISをサポート**

PVIS拡張診断を使用できます。

ベースユニットPNOZ m0p ETH、PNOZ m2p ETH、PNOZ m3p ETH

ベースユニットPNOZ m0p、PNOZ m2p、PNOZ m3pは、Ethernetインタフェース付きバージョンとしても利用できるようになりました。 全体的なEthernet機能は、PNOZ m1p ETHのEthernet機能と同じです。

Ethernet機能の強化

- ▶ 装置Ethernet接続 (ベースユニット上で接続) とプロジェクトEthernet接続 (プロジェクト内に保存) を個別にコンフィグレーションできるようになりました。
- ▶ 装置情報を印刷レポートに表示できるようになりました。
- ▶ パスワードレベル3で作業しているユーザは、Ethernetベースユニットへのオンライン接続を確立して、Ethernet接続設定を変更できるようになりました。
- ▶ オンライン接続が確立された最後の5台のベースユニットのIPアドレスが接続のリストに表示されるようになりました。
- ▶ 接続のリスト内の接続名に装置IDを表示するための設定があります。

両手操作ボタンファンクションの拡張

両手監視を無効化する入力をコンフィグレーションできるようになりました。

コンフィグレーション可能なケーブル長 (PNOZ ml1p用)

リンクモジュールPNOZ ml1pをコンフィグレーションする際、「リンクモジュールステータス」ファンクションでケーブル長をコンフィグレーションできるようになりました (≤ 100 mまたは>100 (最大1000 m))。

レポート印刷機能の強化

ユーザ独自のロゴを表紙に表示できるようになりました。

管理者権限なしでコンフィグレータを使用可能

管理者権限のないユーザもPNOZmultiコンフィグレータを使用できるようになりました (ただしインストールには、これまで同様管理者アクセス権が必要です)。

バージョン7.0.1での変更点

このバージョンは、次の言語で使用できます。

- ▶ ドイツ語
- ▶ 英語
- ▶ フランス語
- ▶ スペイン語
- ▶ イタリア語
- ▶ 日本語
- ▶ 中国語

バージョン7.0.0での変更点

新機能

分散型入出力を接続するための新しい増設モジュール

分散型I/Oを接続するための新しい接続モジュールがサポートされています。

- ▶ PNOZ ml2p
 - 分散型入力が入力ファンクション内でコンフィグレーションできます。
 - リンクモジュール1つにつき、分散型入力を8点までコンフィグレーションできます。
 - 分散型一般出力、24V出力またはテストパルス出力をコンフィグレーションできます。

仮想入出力数の拡張

内蔵インタフェースを介して伝送される仮想入出力の点数と、フィールドバス入出力の点数を、24点から128点に拡張できるようになりました。

マクロ

- ▶ 1つ以上のロジックファンクションをマクロとして定義し、ワークスペース内の他の場所に挿入できます。マクロに含まれるロジックファンクションは、ワークスペース内に挿入されるため、編集できます。
- ▶ マクロのインポートとエクスポートを行うことができます。
- ▶ マクロはさまざまなプロジェクトで再利用できます。

ミュートイングファンクションの拡張

- ▶ ミュートイングファンクションのコンフィグレーション時に出力パラメータMuting active (ミュートイングのステータスを表示) の有効化/無効化を切り替えることができるようになりました。
- ▶ ミュートイングファンクションの入力パラメータをロジックファンクションにも接続できるようになりました。

XOR命令の拡張

- ▶ 新しいロジックファンクションXOR (2k+1)
- ▶ ロジックファンクションXOR (=1) に最大5点の入力をコンフィグレーションできるようになりました。

拡張入力の有効化

入力セルを介して有効化された入力を無効化できるようになりました。

アップダウンカウンタ

ファンクションに現在のカウンタステータスが表示されるようになりました。

ワークスペース

- ▶ ハードウェアコンフィグレーション用の新しいウィンドウ
- ▶ モジュールは、挿入されたときに、既定の装置IDを受け取ります。
- ▶ [ハードウェアコンフィグレーション] ウィンドウ内でワークスペースの右と左のどちらにモジュールツリーを配置するかを、オプションで選択できます。
- ▶ マクロライブラリ用の新しいファンクションリストとバー
- ▶ バーは表示／非表示を切り替え可能
- ▶ 接続配線表示機能の強化
- ▶ ワークスペース内のセルをダブルクリックしてファンクションを選択できるようになりました。
- ▶ ファンクションの接続時に、使用可能な接続が強調表示されます。
- ▶ ステータスウィンドウ内の接続を制限する新しい表示機能

印刷レポート workspace の拡張

- ▶ NOTゲートの表示を更新
- ▶ 接続配線表示機能の強化

ドライバ

ベースユニットPNOZ mm0pのUSBドライバが自動的にインストールされるようになりました。

バージョン6.4.0での変更点

新機能

新しいベースユニット

新しいベースユニットがサポートされています。

- ▶ PNOZ m1p ETH

ベースユニットPNOZ m1p ETH (Ethernetインタフェースが2つ存在)

- ▶ プロジェクトと診断データをEthernet経由でダウンロード
- ▶ コンフィグレーション可能なEthernetベースユニット
- ▶ コンフィグレーション可能なEthernet通信
- ▶ ネットワークスキャン可能なEthernetベースユニット
- ▶ Ethernet通信の確立に使用されるベースユニットを識別することが可能です。

新しい速度監視

新しい速度監視がサポートされています。

- ▶ PNOZ ms2p HTL

200,000 Hzまでの周波数をコンフィグレーションできます。

オペレーティングモードセレクトスイッチ

オペレーティングモードセレクトスイッチの入力ファンクションをコンフィグレーションするときに、遅延時間を入力できます (0~3,000 ms)。

アップダウンカウンタ

新しいロジックファンクションにより、カウンタに対して以下のことを行うことができます。

- ▶ インクリメント (カウンタステータスを設定値に到達するまで1ずつ上げる)
- ▶ デクリメント (カウンタステータスが0になるまで1ずつ下げる)

PVISミューティングファンクション

新しい診断ファンクションを使用して、特定のファンクションから出るPVISメッセージを抑制できます。

グループ診断 メッセージ

新しい診断ファンクションを使用して、5つまでの異なる診断ビットをコンフィグレーションできます。

言語の切り替え

[オプション] メニューでユーザ言語を変更すると、PNOZmultiコンフィグレータが自動的に再起動され、現在のプロジェクトが再び開かれます。

バージョン6.3.0での変更点

新機能

新しいベースユニット

新しいベースユニットがサポートされています。

- ▶ PNOZ mm0p

ベースユニットMini PNOZ mm0p

- ▶ 入力20点、安全半導体出力4点のコンフィグレーションが可能です。
- ▶ PNOZ mm0pの半導体出力は高度故障検出機能付き安全半導体出力としてコンフィグレーションできます。

- ▶ 増設モジュールは接続できません。
- ▶ プロジェクトはUSBポートからダウンロードされます。

ハードウェアと割り付けリストのインポート

- ▶ 割り付けリストをインポートする際の新しいオプション [読み取り専用プロジェクト] が追加されました。このオプションを選択すると、インポートされたXMLデータは変更できません。

この機能は英語版とドイツ語版でしか使用できない点に注意してください。

バージョン6.2.0での変更点

新機能

新しいベースユニット

燃焼制御用に新しいベースユニットがサポートされています。

- ▶ PNOZ m3p

ベースユニット 燃焼制御 PNOZ m3p

- ▶ 6つの異なるバーナータイプの制御および監視が可能です。
- ▶ コンフィグレーションにはPNOZmultiコンフィグレータのウィザードを使用します。コンフィグレーションウィザードの最後のページには次の項目が含まれています。
 - コンフィグレーションの概要
 - このコンフィグレーションで実行されるステップ
 - 対応するステップで設定された入出力の設定状態
- ▶ 3つの診断タイプがサポートされています。

印刷

- ▶ 印刷レポートを表示するためのPDFファイルが作成されます。これにはAdobe Readerが使用されます。
- ▶ 印刷プレビューが改善されています。利用可能な移動オプションおよび設定オプションが増えました。
- ▶ 印刷レポートの全ページのヘッダにロゴを挿入できます。
- ▶ 印刷時にプロジェクトプロパティを記述するタイトルページが2ページ追加されます。
- ▶ ハードウェアレポートでは、ハードウェアモジュールが表示されます。

接続配線表示機能の強化

接続配線の表示アルゴリズムが改善されました。

プロジェクト言語

プロジェクトテキストをエクスポート、翻訳、再インポートできます。プロジェクトテキストには次のテキストが含まれます。

- ▶ 入出力ファンクションのロケーションの概要
- ▶ コメント
- ▶ ページ名
- ▶ プロジェクトの各ページに入力可能なページコメント
- ▶ 装置IDを翻訳できます([ツール] - [起動] オプションメニュー)。

最大文字数の拡張

- ▶ ハードウェアの装置IDの最大文字数は32文字
- ▶ ファンクションの装置IDの最大文字数は23文字
- ▶ 診断ユニット名の最大文字数は40文字

ワークスペース

入力または出力に接続線を引くときに、対応する入力または出力の接続スクエアが表示されます。

検索

プロジェクトからテストパルスを検索するための新オプション

アイコン

- ▶ ツールバーのアイコンの更新
- ▶ [ベースユニットと増設モジュールの選択] ウィンドウのアイコンの更新
- ▶ 有効化されたPVISイベントを表示するアイコンの更新

エラースタック

エラースタックを更新する [リフレッシュ] ボタンが追加されました。

バージョン6.1.0での変更点

新機能

新しい速度監視

新しい2つの速度監視がサポートされています。

- ▶ PNOZ ms3p
- ▶ PNOZ ms4p

速度監視PNOZ ms3p

速度監視PNOZ ms3pの機能は、速度監視PNOZ ms2pと同様ですが、診断が拡張され、より詳細なエラースタック情報を表示できます。また、速度監視を無効にする入力をコンフィグレーションできます。無効化入力の信号ステータスが「1」になると直ちにすべての出力は信号ステータス「0」に設定されます。

速度監視PNOZ ms4p

速度監視PNOZ ms4pの機能は、速度監視PNOZ ms3pと同様です。ただし、コンフィグレーション可能な軸が1つに制限され、速度は16段階までコンフィグレーションできます。PNOZ ms3pとは異なる診断ビットを使用できます。

PNOZ ms3pと同様、無効化入力をコンフィグレーションできます。

プロジェクト言語

変更されたまたは新規の診断コンフィグレーションテキストが既存のテキストテーブルに追加されます。現在のバージョンの元のピルツテキストは、PNOZmultiコンフィグレータのプロジェクト言語マネージャで復元できます。